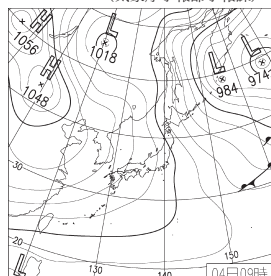


日々の天気図

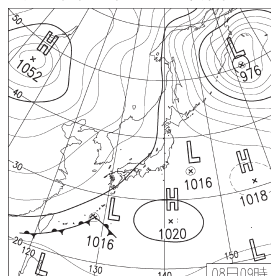
— No. 132

2013年1月

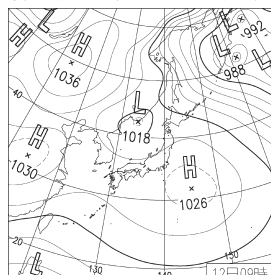
- 3日、台風第1号発生。統計開始の1951年以降4番目に早い記録。
- 12日、網走で流水初日。平年より9日早い観測。
- 13日～14日、急速に発達した低気圧の影響で全国的に荒れた天気。東日本と東北太平洋側で大雪となり、横浜で13cmの積雪。
(気象庁予報部予報課)



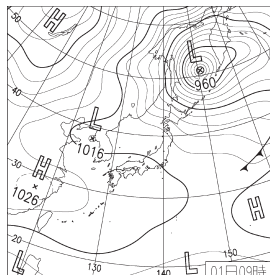
4日(金) 厳しい寒さの日本列島
冬型の気圧配置が続く全国的に冷え込み、北海道内は真冬日。東～北日本の最高気温は平年より6～8℃低い。太平洋側は概ね晴れ、その他は雪や雨。松山市でツバキ開花。



8日(火) 台風第1号熱帯低気圧へ
北陸～北日本の日本海側は雨や雪、西～北日本の太平洋側は概ね晴れ。沖縄は低気圧の影響で曇りや雨。上空の寒気の影響で、北海道は最低・最高気温共に平年より4～6℃低い。

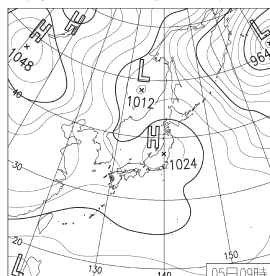


12日(土) 網走で流水初日
寒さ続く。放射冷却により東北南部では最低気温が平年より10℃以上低く、福島県南会津町田島は-17.1℃と1月の最低気温の低い値を更新。平年より9日早く網走で流水初日。



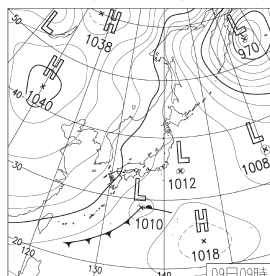
1日(火) 北日本の冬型持続

北日本～北陸にかけて雪、太平洋側は概ね晴れ。九州は日本海の低気圧の影響で日照時間少なく概ね曇り。北海道釧路市幸町で最大風速22.6 m/s、1月の1位の値を更新。



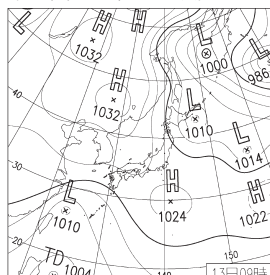
5日(土) 冬型の気圧配置緩む

上空の気圧の谷の影響で西日本中心に曇りや晴れ。沖縄・奄美は雨や曇り。北日本日本海側では雪。北海道陸別で最低気温-30.2℃。今季初の-30℃以下。アラスカ沖でMw7.5。



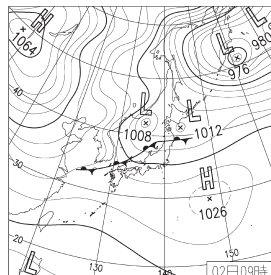
9日(水) 冬型の気圧配置に移行

日本の南海上を低気圧が東進。九州～東海と北海道太平洋側で晴れ、北陸～東北は概ね雨。北海道枝幸町歌登で最低気温-31.7℃と気温低く、北日本中心に冬日607地点。



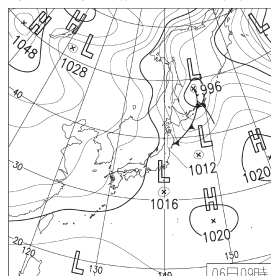
13日(日) 西から天気下り坂

東シナ海の低気圧により、沖縄～九州は雨。沖縄で30 mm/1h以上の雨となり1月の1位の値を更新した所も。東日本は高気圧圏内で晴れて気温が平年よりも高め。岩手県で震度4。



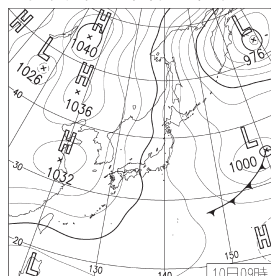
2日(水) 太平洋側も強い風

冬型の気圧配置が強まり、日本海側は雪や雨に加えて暴風も。北海道石狩市浜益で最大瞬間風速37.1 m/s。太平洋側も前線の通過に伴う強風。千葉県勝浦で最大瞬間風速23.6 m/s。



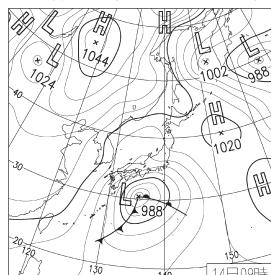
6日(日) 冬型の気圧配置強まる

寒冷前線が通過した北日本を中心に冬型の気圧配置となり、北日本と北陸は雪や雨、強風も。北海道えりも岬で29.1 m/sの最大瞬間風速を観測。東京都心で今冬の冬日。



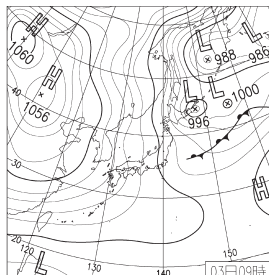
10日(木) 北海道で真冬日続く

冬型の気圧配置となり、北日本や北陸中心に雪。太平洋側では晴れ。北海道では4日連続全地点で真冬日。1月上旬の降水量は、西日本と東日本太平洋側で平年よりかなり少ない。



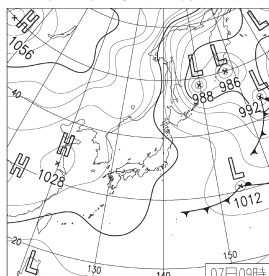
14日(月) 東日本は雪の成人式

急速に発達した低気圧により太平洋側は風が強く、関東南部中心に雪。千葉県銚子で最大瞬間風速38.5 m/s。横浜・東京で初雪。最深積雪は横浜13 cm、東京8 cm。



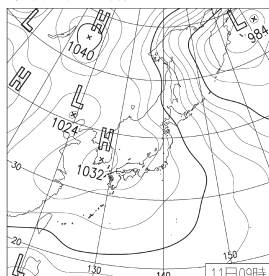
3日(木) 冬型の気圧配置続く

本州日本海側～北海道まで降雪や強風。北海道石狩市浜益で最大瞬間風速36.9 m/s。太平洋側の一部でもにわか雪。沖縄・奄美では概ね曇り。台風第1号発生、史上4番目の早さ。



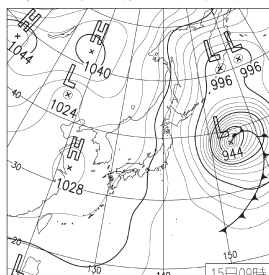
7日(月) 南大東 ウグイス初鳴

雪や風が弱まり、太平洋側に加え日本海側も晴れ。北海道は最低・最高気温共に平年より低く、全ての地点で真冬日。南大東村でウグイス初鳴。最早記録を更新。



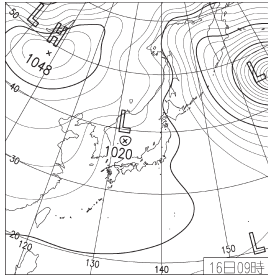
11日(金) 北日本 厳しい寒さ続く

本州付近は移動性高気圧に覆われ、冬型の気圧配置は次第に緩む。日本海側の雪・雨は弱く、太平洋側では晴れ。気温は全国的に冬日の所が多く、北日本では厳しい寒さ続く。



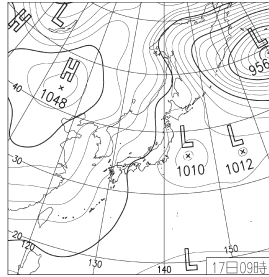
15日(火) 冬型の気圧配置へ

低気圧が東海上で発達し、日本付近は冬型の気圧配置となって日本海側では雪。太平洋側は東海・関東を中心に概ね晴れ。北日本を中心に293地点で真冬日。



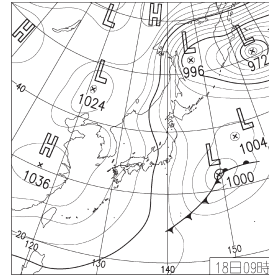
16日(水)一時的に冬型緩む

西日本から北日本の太平洋側では概ね晴れたが、九州北部や関東の一部では曇り。北陸から北日本日本海側では雪や曇り。北海道陸別で最低気温-29°C。



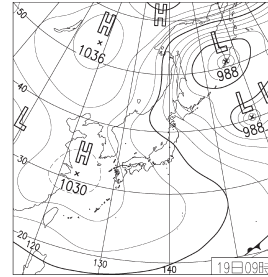
17日(木)網走で流水接岸初日

山陰で大雪、岡山県真庭市上長田で日降雪量55cm。青森県・北海道は全地点で真冬日。北海道中頓別で最低気温-31.9°C。網走で平年より16日早い流水接岸。高知・銚子で初雪。



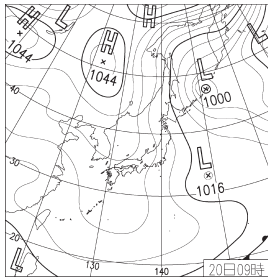
18日(金)冬型の気圧配置強まる

冬型の気圧配置が強まり日本海側は雪。全国的に風強く、最大瞬間風速は沖縄～北海道の所々で20m/s以上。沖縄～北海道の所々で20m/s以上。最低・最高気温とも平年より低く、全地点の約4割、380地点で真冬日。



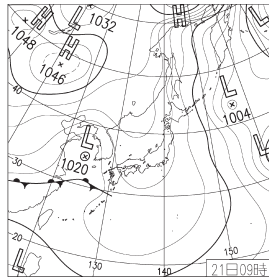
19日(土)冬型の気圧配置持続

最低気温は沖縄・奄美以外は全国的に平年より低く、北日本は真冬日。長野県南牧村野辺山-24.6°C。日本海側は雪や曇り、太平洋側は晴れ。宮古島市でヒカンザクラ開花。



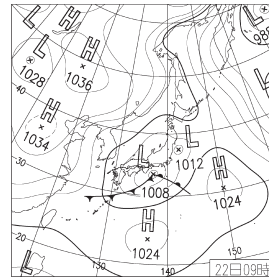
20日(日)北日本 最低気温3月並

冬型の気圧配置が続く。北陸～北日本日本海側で雪。九州や東海～関東を中心に太平洋側は晴れ。札幌市中央区では最低気温-2.1°C、平年より5.2°C高く、3月中旬並。



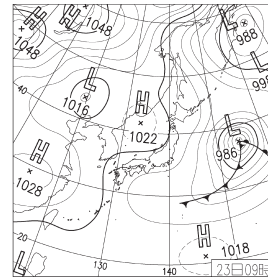
21日(月)雨域 東に広がる

気圧の谷が接近、東～北日本で日中晴れたが、西日本で降り始めた雨が次第に関東まで広がる。最低気温は沖縄と北海道で平年より高い。南大東村でヒカンザクラ満開。



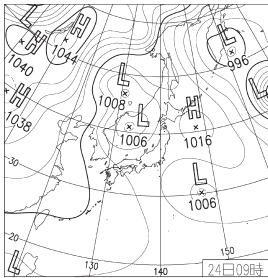
22日(火)諏訪湖で御神渡り出現

低気圧の東進に伴って西～東日本は雨、北日本は雪。東京都大島元町で28mm/hの雨。最低気温は全国的に平年より高く、西日本は4月並。西日本は最高気温も3月並と高め。



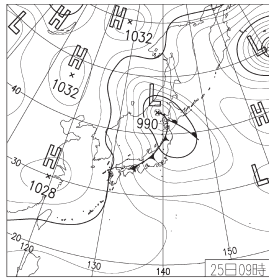
23日(水)気圧の谷接近

本州付近は雲が広がり、太平洋側の所々で小雨が降り出す。北日本の最低気温は平年より低く、北海道占冠で-27.9°C。那覇市でヒカンザクラ満開。三宅島で小規模噴火。



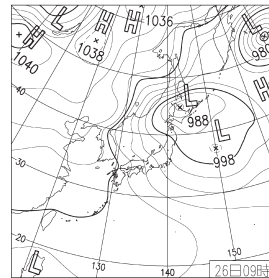
24日(木)関東南部沿岸で降雪

日中は全国的に概ね晴れ。北日本中心に冬日。山陰～北陸にかけて最高気温は3月並の所も。富山は平年より7.1°C高い12.6°Cで3月下旬並。長崎市でウメ開花。北海道で震度4。



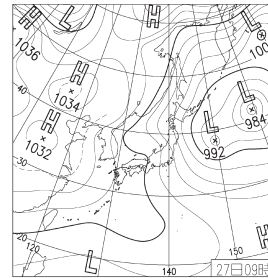
25日(金)北日本で暴風雪

冬型の気圧配置が強まり、北日本や北陸、西日本の日本海側で雪。西～東日本の太平洋側でも沿岸部で晴れたが山沿い中心に一部で雪。北海道奥尻空港で最大瞬間風速29.8m/s。



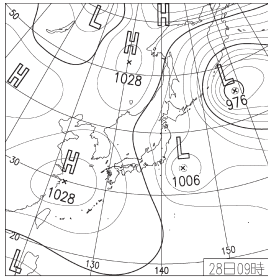
26日(土)冬型の気圧配置続く

冬型の気圧配置が持続し、日本海側では雪が続く。北日本や北陸では風も強く暴風雪。山形県酒田市飛鳥では最大瞬間風速31.1m/s。全国的に気温が平年よりも低い。静岡で初雪。



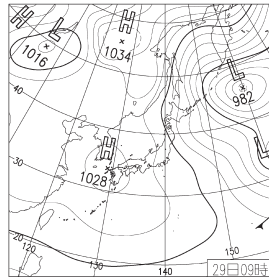
27日(日)太平洋側も雪

冬型の気圧配置が続く日本海側で雪。東海や東北は太平洋側も雪。北日本の沿岸部は風が強く、山形県酒田市飛鳥では最大瞬間風速31.1m/s。全地点の約9割、804地点で冬日。



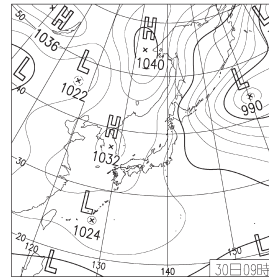
28日(月)房総半島で大雪

低気圧の影響で、房総半島で大雪。千葉市中央区6cm、千葉県銚子5cm。高気圧が西から張り出し、冬型は西日本で緩む。北陸～北海道の日本海側では雪。茨城県で震度5弱。



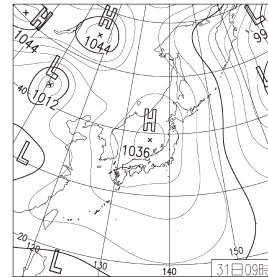
29日(火)高気圧に覆われる

西～東日本は高気圧の圏内で概ね晴れ。北日本日本海側は冬型の気圧配置で雪や曇り。最高気温は東北で平年並、その他は平年より2°C前後高め。静岡市でウメ開花。



30日(水)引き続き高気圧圏内

沖縄付近を低気圧が通過し沖縄・奄美では雨。西～東日本は高気圧に覆われ太平洋側は晴れ。北日本日本海側は冬型の気圧配置で雪や曇り。宮崎市でヒバリ初鳴。



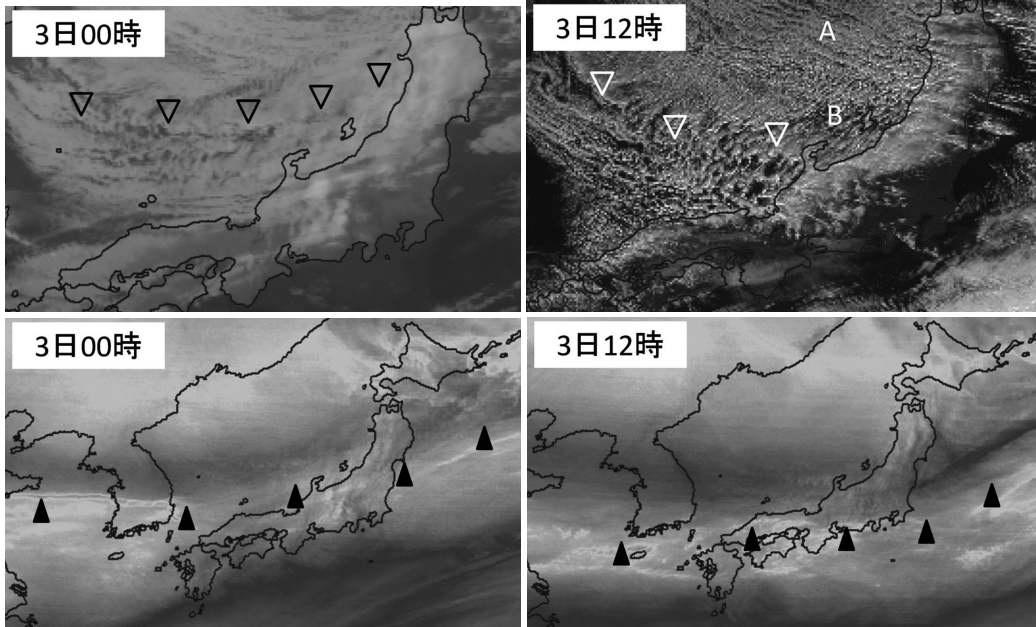
31日(木)全国的に穏やかな天気

全国的に高気圧に覆われ、晴れて風の弱い所が多い。最高・最低気温は沖縄～九州と北海道で平年より高く4月上～中旬並の所も。大分市・高知市でウメ開花。茨城県で震度5弱。



今月のひまわり画像—2013年1月

日本海の対流雲列とバウンダリーについて



第1図 2013年1月3日00時（日本時間）の日本海付近の赤外画像（左上）、12時の可視画像（右上）及び同時刻の水蒸気画像（下段）、図中の記号については本文参照。

2013年1月は、年明け早々の2～3日に冬型の気圧配置が強まり、北海道の石狩市浜益では3日00時過ぎに28.2 m/s（1977年の統計開始以来観測史上1位）の西風，新潟県の妙高市関山では3日の降雪の日合計が99 cm（1980年の統計開始以来観測史上2位）となるなど北日本の日本海側を中心に、大雪や暴風雪になった。今回は、この時の雪雲の推移を衛星画像で振り返ってみたい。

第1図上段は、3日00時（日本時間）の日本海付近の赤外画像と12時の可視画像である。左図の記号▽付近にはほぼ東西の走向を持ち、所々に活発な対流雲を含む雲列が見える。雲列の東端は不明瞭ながら秋田県付近に達している。右図の▽付近には東端が能登半島付近にまで南下した同様の雲列が見える。このような雲列は带状対流雲と呼ばれており、本州の日本海側の地域における大雪との関連が指摘されている。さらに、右図のA領域には寒気の吹き出しに伴う筋状雲、B領域にはこの筋状雲とほぼ直交するような走向（T（トランスバース）モード）を持つ雲列が確認できる。このTモードの走向を持つ雲は、下層（1000～800 hPa 付近）の風のシア方向に並んでいる（第2図）。



第2図 Tモード走向の模式図。

第1図下段は、上段と同じ時刻の水蒸気画像である。下段の図には明域と暗域の境界であるバウンダリーの位置を記号▲で示した。一般に、バウンダリーは中上層の強風軸に対応している。左図ではこのバウンダリーが日本海西部から中部へ伸びており、右図ではそれが西日本付近にまで南下していることがわかる。今回の事例では、日本海付近におけるこのバウンダリーの南下に合わせるように、前述した活発な対流雲を含む雲列は移動していた。

（気象庁予報部予報課 野中信英）